

## 強化降圧療治療と標準降圧治療、患者満足度に差なし

これまでに発表された収縮期血圧に関する介入研究（SPRINT 試験）の結果では、糖尿病のない心臓血管リスクの高い高血圧患者において、強化降圧治療のほうが標準降圧治療に比べて心臓血管リスクが低いことが示されている。そのような強化治療が、患者自身が報告する転帰にどのように影響するのかわかりませんでした。

本研究では、高血圧患者 9,361 例を無作為に 2 群、すなわち、収縮期血圧の目標値を 120mmHg とする「強化治療群」と、同目標値を 140mmHg とする「標準治療群」に分けて降圧治療を行い、患者報告による転帰について比較した。患者報告の転帰の指標には、12 項目の健康調査票による身体的サマリースコアと、精神的サマリースコア、患者健康質問票の 9 項目のうつ病評価尺度スコア、患者報告による血圧治療および降圧薬に対する満足度、降圧薬の服薬順守とした。結果、強化治療群は標準治療群に比べ、降圧薬を平均して 1 種多く服用しており、収縮期血圧値は 14.8mmHg 低かった。中央値 3 年の追跡期間中、患者報告による身体的、精神的サマリースコアおよびうつ病評価尺度スコアの平均値は相対的に安定し、両群で有意差は認められなかった。降圧治療への満足度は両群とも高く、降圧薬の服薬順守についても両群で有意差はなかった。

したがって、強化降圧治療を行っても、標準降圧治療を行った場合と比べて患者報告による健康転帰や、降圧治療に対する満足度、降圧薬の服薬順守には有意差がないことが明らかとなった。

出典：The New England Journal of Medicine. 2017; 377(8): 733-744